

津山市立高野小の5年生が、ポイ捨て防止のために、学区内の3公園に手作りのごみ箱を設置しました。記事を読み質問に答えましょう。

ポイ捨て やめようよ



公園のごみ減量のためごみ箱や看板などを手作りした5年生の代表

津山市立高野小(高野本郷)の5年生60人が、学区内の3公園に手作りのごみ箱を設置し、看板やポスターも掲示してポイ捨て防止を呼び掛けている。実際に公園で調査して実態を把握し、自分たちの手できれいにしようと対策に乗り出した。(山根上貴)

5月、小川久美江校長が全校児童に「どうすれば公園のごみを減らせるか考えてほしい」と投げかけたのがきっかけ。それに5年生が対応。公園に出向いて調べたところ、菓子の袋やジュースのペットボトルが多いことが分かり、同世代の子どもたちのポイ捨てが原因ではないかと推察したという。

高野小5年生

手作りごみ箱 3公園に設置

看板やポスターも 実態調べ美化へ対策

翌月には児童が4、5人ずつに分かれてごみ箱、看板、ポスターの製作をスタート。ごみ箱の形状は子どもの目に付きやすいウサギやバスケットゴールをモチーフにするなど工夫した。看板やポスターは「ゴミはゴミ箱に捨てよう」「やめようポイ捨てきれいな公園へ」とPR。学校で使うワックスが入っていた空き缶や運動会で使ったプラカードを再利用して仕上げた。

完成したごみ箱は高野第一公園(高野山西)、第二公園(高野本郷)、鴨川公園(同)に今月上旬、2セットずつ設置。夏休みに入っても定期的に児童が様子をチェックし、たまったごみは学校に持って行って回収しているという。

看板作りなどを担当した伴野柊真君(10)は「ごみ箱を公園に置いてからポイ捨てが減っている。これからもきちんとごみが捨てられ、公園がきれいになればうれしい」と話している。

7月30日付山陽新聞、作州ワイド版

Q1 高野小5年生は、公園のごみのポイ捨ての実態を調査しました。どんな種類のごみが多いことがわかりましたか。第2段落を読み答えましょう。

Q3 皆さんの住む地域の公園などでは、ごみのポイ捨てがありますか。もしあるなら、ポイ捨てをなくす対策を考えましょう。

Q2 高野小5年生は、ごみ箱の形状について、どんな工夫をしていますか。

過去の問題は
こちらから▶▶

◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。